

民生委員が足りない…



相談支援活動 全国平均の2.8倍

「民生委員」は、厚労大臣から委嘱された非常勤地方公務員として、住民と行政等をつなぐパイプ役です。しかし、「後任がいらない」「活動が理解されず、大変」「業務量が多く、続けられない」…こんな声が民生委員から聞かれています。市内民生委員の欠員は、8月末で6人、12月ではさらに増加するというのです。

日本共産党の調査によれば、全国と比較した場合、流山市内の民生院の活動量は、介護や見守り、虐待など地域住民から寄せられる相談に対応した『相談支援活動』で2.8倍、住民からの相談を関係行政窓口等へ連絡する『連絡調整活動』で3倍にもなっています。

民生委員一人あたりの活動実績平均

H24年度	流山市	全国
一人当りの世帯数	400軒	170～360軒
相談支援活動件数	88件	31件
その他の活動件数	183件	116件
訪問活動	229回	161回
連絡調整回数	210回	69回
活動日数	197日	130日

この原因は、民生委員の配置を400世帯に1人に絞っている県・市の姿勢にあります。人口10万人の市町村では170～360世帯として、いること国基準と比較しても少ないのです。

行政・地域が力集め、民生委員の増員を

オーバーワークの解消と、『共助』を活かす『公』の責任として定員増を求めた日本共産党の質問に、井崎市長は「持続可能にしなければならぬので研究したい」と約束しました。

市議会H25年決算審査特別委員会による『指摘・要望事項（議会全体の合意事項）』でも「民生委員を増やすための抜本的対策をとられたい」と明記することになりました。

…先進自治体から学ぶ…

- ①活動実態の把握と窓口一本化：どの地域でどういう活動が負担になっているのか…アンケートを実施し、民生委員の実態を把握する。また、介護・虐待・見守り・子育てと様々な課題解決へ窓口を一本化した市職員体制を構築する。
- ②活動の広報と自治会介入の促進：民生委員の活動の重要性等を広報し、自治会・地域住民・社会福祉協議会委員・PTA・地域の公共施設館長・民間企業等の協力関係を深める。また自治会加入を促進し、地域コミュニティの醸成、後継者づくりを自治会任せにしない。
- ③活動の重要性を評価し、増員を図る：全国平均に近づけるためにも、当面の間、300世帯に1人の配置とし、定員を163人から227人へ拡充し、災害弱者への支援強化を図る。表彰税度の充実や活動に応じた補助制度等を図り、やりがいを高める。